

2014年度

事業報告書



京都市環境保全活動センター
みやこ 京エコロジーセンター

(指定管理者:公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会)

「持続可能な地域社会」を目指して

京エコロジーセンター（以下、「センター」という。）は、1997年12月に京都市で開催された「地球温暖化防止京都会議」（COP3）の開催を記念して京都市が開設した環境教育、環境保全活動の拠点施設です。センターは現在、指定管理者制度（※1）の下で事業運営委員会（※2）を設置して様々な主体とのパートナーシップにより「持続可能な地域社会」を目指して、事業運営を行っています。

2011年度より、センター第2期中長期計画（※3）に沿って事業運営を行っており、本報告書は、センターに来館されたお客様を始め、多くの方々に事業の内容や、その果たす役割、成果をわかりやすく理解いただくためのツールとして作成しております。

- ※1 2013年～2016年の間、公益財団法人京都市環境保全活動推進協会（2014年度に「財団法人京都市環境事業協会」から改称）が指定管理者として指定されています。
- ※2 京都市から提示された仕様書に基づき、様々な主体により構成された「事業運営委員会」の設置が求められており、事業の企画、立案、評価を協働で行っています。
- ※3 2010年度末に事業運営委員会により策定された事業計画で、2015年度を目標年度と定めた計画です。（第1期は2005年～2010年）

京エコロジーセンター 事業報告書 2014年度

◎対象期間 2014年度（2014年4月1日～2015年3月31日）の事業を中心に、過年度からの継続的な事業や次年度に向けた事業、将来の見通し・予定などについて記載しています。

◎発行日 2015年9月

◎発行 京エコロジーセンター（指定管理者：公益財団法人京都市環境保全活動推進協会）

もくじ

理事長メッセージ	2
将来像	3
PROJECT1 いろいろな主体が学び、育つステージの提供	
1-1 館内・館外の環境学習プログラム開発 館内案内・団体見学	4
1-2 環境ボランティアの育成・支援	6
1-3 子どもから大人まで環境人づくり	8
PROJECT2 いろいろな主体による環境保全活動への支援と連携	
2-1 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携	10
2-2 NPOをはじめとする環境保全活動団体への支援・連携	10
PROJECT3 持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流	
3-1 情報発信・広報対策	11
3-2 イベントの企画と実施	13
パートナーの声 事業全体を通じて	16
資料集	17
事業運営体制	19
KESの取り組み インフォメーション	21
年表	22

「エコセンの活動をもっと発信しよう」

公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会

理事長 高月 紘

当協会では、今後の協会の進むべき方向性に関して、総合戦略検討小委員会を設けて、種々の角度から検討を重ねているところです。この小委員会からはこれまでの議論の中で、協会としては、センターの指定管理業務、京都市からの他の受託事業、国等からの公募事業やJICA研修、他団体からの助成金等を活用しながら、長期的視点に立ち、協会の基盤強化、ノウハウの蓄積、人材の蓄積を図るべきとの方向性が示されました。さらに、独自に事業展開できる可能性の高い次の6点すなわち、①地域社会との連携を深める ②パートナーシップをこれまで以上に ③人材育成 ④京都という特性を生かし、全国、世界への波及 ⑤環境学習ツール・プログラム開発力の強化 ⑥発信力の強化 には協会として注力すべきとの提言をいただきました(2014年度末時点)。小委員会ではセンターの職員と外部の有識者との意見交換が行われますが、興味深いことは、これまでのセンターの取り組み内容について、職員は控えめなのに対し、外部の有識者からは高い評価をいただいている点です。協会内部の人間が考える以上に、センターの活動は外部からは注目されているようです。これからは、協会は自信を持ってセンターの活動を発信すべきです。

そして、合わせて地域との連携やパートナーシップを大切にしていける必要があると思われます。



※「エコセン」は京エコロジーセンターの略称です。

将来像及び実現のための事業分野と 方向性・事業プロジェクト一覧

京エコロジーセンターの将来像

「持続可能な地域社会」の実現に向け、多くの国内外の子どもや大人、事業者、学生、NPO が集い、様々な環境学習プログラムが展開され、環境保全活動を担う人が「育つ場」、その活動を「支援・連携する場」、環境保全活動の成果を「発信する場」になっている。

PROJECT 1

いろいろな主体が学び、育つステージの提供 (人づくり、場づくり、仕組みづくり)

【方向性】

- 京エコロジーセンター独自の楽しい環境学習プログラムを専門家、事業者、NPO 等のパートナーシップにより開発する。
- 技能や知識を持った専門スタッフや環境ボランティアが、その場に応じて学習プログラムを実施する。
- 京エコロジーセンターや地域で活動する多様な環境ボランティアを育成する。
- 子どもや親、教師、事業者などの「おとな」を対象とした環境学習の機会を設け、繰り返し参加できるようにし、環境意識の向上をはかる。
- 市内の多様な自然環境や環境関連施設を活かして、京都市全域をフィールドとした活動を実施する。

【実現のための事業プロジェクト】

- 1-1 館内・館外の環境学習プログラムの開発、実践
- 1-2 環境ボランティアの育成・支援
- 1-3 子どもから大人まで環境人づくり

PROJECT 2

いろいろな主体による環境保全活動への支援と連携 (支援・連携する場)

【方向性】

- 地域で環境保全活動を進める時に、必要な支援を受けたり連携できるような拠点となる。
- 環境保全活動をしている人たちの交流の場や機能を提供する。
- 環境に関心のある人や環境保全活動をしてみたい人たちが必要な情報を入手できる場や機能を提供する。

【実現のための事業プロジェクト】

- 2-1 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携
- 2-2 NPO をはじめとする環境保全活動団体への支援・連携
- 2-3 事業者、教育機関による環境保全活動への支援・連携（※事業全体で取り組む）

PROJECT 3

持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流 (発信する場)

【方向性】

- 京都市の市民、事業者、行政、大学等教育研究機関、学生、NPO 等のパートナーシップによる協働により、先進的な調査・研究・モデルプロジェクトの支援を行う。
- 京エコロジーセンターの取組や成果を、様々な方法や機会を通じて日本全国や世界に発信し、交流する。
- 世界や全国の環境に関する情報を収集し、市民にわかりやすく発信する。
- 広く市民に開かれた、環境コミュニケーションの場や機能を提供し、環境や京エコロジーセンターに関心のある人を増やす。

【実現のための事業プロジェクト】

- 3-1 情報発信・広報対策
- 3-2 イベント（プログラム）の企画、実施

いろいろな主体が学び、 育つステージの提供 (人づくり、場づくり、仕組みづくり)

1-1

館内・館外の環境学習プログラム開発 館内案内・団体見学

2014 年度 成果目標

様々なお客様のニーズに対応できるプログラム・ツール・展示およびそれを活用するスタッフが充実している。

2014 年度 結果

- ◎プログラム研修の実施、ふりかえりの充実、団体見学部活動など、団体見学に参加するボランティアのスキルアップは図れている。その一方で、プログラム開発に十分な時間を割けておらず、体系だてた環境学習プログラム及びツールの充実には至っていない。
- ◎2013年度の展示作業部会を受けて、エントランスに設置する展示作成に着手した。今後の展示開発の指針となる「展示開発プラン」については、展示作業部会で継続協議し、年度内に完成した。

2015 年度 到達目標

幅広い年齢層を対象に館内外において、体験を通した気づきから行動につながる体系だてた環境学習プログラム及びツールが充実している。さらに、参加者のみならずスタッフも学ぶことのできる場づくりが行われている。

プログラム開発・センター学習対応

京都市青少年科学センターが実施する、京都市内の小学校向け学習（以下、センター学習）の受け入れに関し、学習内容の理解や子どもとの関わり方を学び、より学習効果が高いプログラムを実施するために、ボランティアスタッフ対象の研修を4回実施しました。また、学校現場における環境教育の担い手を育て、学校現場で環境教育がより一層推進されることを目的に、京都市教育委員会と協働で全教職員を対象にした環境教育研修講座を企画・実施しました。



環境教育研修講座の様子

団体見学調整・対応

団体見学では、国内はもとより海外からも多くの団体に見学にお越しいただきました。年間で団体見学は175件6,091名、センター学習は147校4,794名、あわせて322件10,885名の受け入れを行いました。そのうち、京都市環境政策局主催の「エコバスツアー」を19件受け入れ、中でも館内案内とエコクッキングを併せた「エコクッキング編」は好評で、12件の受け入れを行いました。また、団体見学の参加者やセンター学習の引率者向けのアンケートを実施し、スタッフへのフィードバック等に活かしています。



大学生への見学対応の様子

環境副読本

小学4年生、5年生、中学生向けの3種類の環境学習に役立つ環境副読本を作成し、京都市内の全小中学校に配布しました。総合的な学習の時間はもちろん、各教科内で環境をテーマに学習する際に活用されています。また、小学5年生向けの環境副読本には、各テーマのインタビュー記事の掲載とあわせて、学習の補助教材として活用できるインタビュー動画を作成しました。

■環境副読本インタビュー動画ホームページ

<http://www.miyako-eco.jp/advice/>



毎年最新のデータに更新

常設展示

7月18日に累計来館者数が100万人に到達し、7月～9月の3か月間、参加型の記念展示を設置しました。6月からは、上下水道局と協働で、雨水浸透ますの模型を設置し、3月には関連イベントを開催しました。2月には、全国の小規模博物館同士の連携のための「第6回小さいとこサミット」を誘致し、前日イベントを含め581名の参加がありました。また、展示作業部会では、「展示開発ガイドライン」の改訂を行い、今後の展示事業の方向性がまとまりました。



小さいとこサミット「全員参加型ディスカッション」の様子

企画展示・企画展関連イベント

8～9月に開催した「エコ住宅素材展」では、新たに「京都市産材の端材展示」とその関連イベントを実施しました。同じく8～9月には並行して、1階エントランスを活用した「うちわ展」とイベントを開催しました。12～1月に開催した公募型企画展では、リースを軸に事務用品の再使用を推進する事業者と協働で企画展を実施しました。また、2～3月は、環境ボランティアグループ「展示部」が企画した「ひとりいちにち展」を開催しました。



「菴連也展」開催セミナーの様子

ちきゅまるひろば

ちきゅまるひろばとは、スタッフによる申込不要のミニプログラムで、毎週日曜日、さらに夏休み期間は毎日開催しました。年間で70回延べ835名が参加しました。プログラムは、館内の展示やスタッフの個性を生かし、水資源や交通の問題等、毎回違ったテーマで参加者が楽しく環境について学べるようにプログラムを企画・実施しています。定期的にプログラムを行うことで、ちきゅまるひろばを目標てにえられる新規来館者やリピーターが増えてきました。



実施の様子

出前講座

学校や地域コミュニティ等に出向き、クライアントのニーズに合わせた、様々なテーマの出前講座を企画・実施しました。学校で緑のカーテンを始めるにあたって、その効果を体験する講座や、生物多様性の重要性について体験するもの、環境に配慮した買い物について体験するもの等、テーマに合わせて体験を中心とした出前講座を行いました。2014年度は8件の出前講座を企画・実施しました。



朱雀第四小学校での授業の様子

環境ボランティアの育成・支援

2014 年度 成果目標

ボランティア育成・支援の体制が体系化されている。

2014 年度 結果

ボランティア育成・支援の体制として、エコメイト養成講座、ステップアップ研修、年間を通じたボランティアマネジメントを実施し、その評価の体制を整備することを2014年度の目標としていたが、エコメイト養成講座、ステップアップ研修の実施と評価の仕組みはできつつあるものの、ボランティアマネジメントの評価の体制は不十分な結果となった。また、エコメイトへの支援が中心であり、京エコサポーターへの支援の体制についてはまだ十分とは言えない状態である。

2015 年度 到達目標

新規養成講座やエコメイト活動3年間およびその後の京エコサポーターとしての地域活動までを見据えた活動・研修などのサポート体制が整っている。

センターでは3年任期の環境ボランティア「エコメイト」と、エコメイトを修了した「京エコサポーター」が活躍しています。

エコメイト養成講座

本講座は、来館者とのコミュニケーションを図るために必要な知識、技術を習得することを目的とした講座で、センターの環境ボランティアとして活動するために、受講を必須としています。講座は、ボランティア活動の基礎、グループコミュニケーション、環境問題の基礎、環境学習プログラムの基礎、企画、実践等の座学及び実習を含んでおり、2014年度は12月～3月の間に計6回（7日間）開催しました。（応募者24名、受講者22名、登録者22名）。



活動の不安や、疑問を解消している様子

ステップアップ研修

環境ボランティア「エコメイト」は3年間の任期修了後、地域での環境保全活動を広げる役割を期待されています。このため、3年間の活動がより充実したものとなるよう、月1回程度の頻度で研修を企画・実施しています。2013年度に引き続き、任期期間中に体系的に学べるような研修カリキュラムを作成し、実施しました。2014年度は、環境問題の知識を得るための研修や、コミュニケーションの取り方、環境学習プログラムの企画・実施方法など、様々な研修を11回実施しました。



展示案内についてみんなで意見を出し合っている様子

マネジメント全般（ボランティア部・会の支援等）

環境ボランティアは、展示の案内・解説、環境学習プログラムやイベントの企画・実施を通じて環境に配慮したくらしを来館者と一緒に考え、広める役割を担っています。そのような活動をより活発にするために、ボランティア同士の交流促進（ボランティア部）、活動意欲の維持・向上（全体マネジメントの会）、活動における不安解消・課題解決（ボランティア全体ミーティング）、ボランティアの主体性を引き出すための活動支援（会の支援）等を行いました。



「スタートアップの会」で年間の目標を発表し合う様子

コラム

「博物館・公園等ボランティア交流会 ～かがやくボランティア大集合!～」を開催

2014年度には、センターとして初めての試みとなる「博物館・公園等ボランティア交流会」を開催しました。この交流会は、普段なかなか交流の機会がない関西の施設ボランティア同士の交流を行うことで今後の活動へのモチベーションを高め、それぞれの活動がより魅力的になっていくことを目指し、開催しました。また、この交流会は、センターの多くのボランティアの輪をつなげ、元気で明るく楽しい活動を支えることを目的に活動しているボランティア部（愛称：ボラリンクラブ♡）が中心に企画を進めました。

初めてセンターを訪れた他施設のボランティアにセンターのボランティアが展示案内をしたり、各施設のボランティア活動の事例発表をそれぞれの施設のボランティアが行い、お互いの活動についての紹介をしたりしました。また、事例発表後の交流の場では、ボランティア同士が互いの活動について意見を交換する場面もあり、有意義な情報交換の機会となりました。



ボランティアのこえ

エコセンで、「私にできること」を見つけました

エコセンでボランティアを始めて10年が経ちます。仕事で訪れた京都市役所で、エコメイト募集のチラシが目に入り、「何だか楽しそう」と、軽い気持ちで応募しました。当時の私は、環境問題への深い関心があり、周りの方の意識の高さに戸惑うこともありました。

日々の活動や研修を続けるうちに、来館者の皆さんや私達が楽しみながら、環境について学べることをしたいと思うようになりました。そして、エコセンの皆さんのご協力を頂き、2007年から5年間「クリスマスエコフェスタ」というイベントの企画運営をすることができました。エコセンでのボランティアは、自分が「してみたい!」と思えば実現できる場であり、やればやった分だけ、何かが得られる場だと実感しました。

これからも、エコセンで、地域で、そして、多くの人との出会いを大切に、楽しくボランティア活動を続けていきたいと思っています。



京エコサポーター5期生
高橋 裕佳子さん

エコセンは、身近なエコからアクティブな活動の輪を広げる出会いの広場

エコセンの環境ボランティアに応募したきっかけは、イベントでのいきいきしたボランティアの姿やその活動内容に共感したことです。エコセンは、館内案内、グループ活動、サポート活動などを通して、ボランティア仲間と共汗しながら、いろんな体験が出来る場であり、そして多くの子ども、親子連れ、大人の方との出会いから、地球温暖化に関する問題を一緒に考え、学ぶことが出来る場です。また色んな活動の中で自らアイデアを提案し、イベントを企画・実践ができる無限の活動の可能性を秘めています。Think Globally, Act Locally! (地球規模で考え、足元から行動する) まずは自分の好きなこと、できることから始めることが大切です。これからも私はエコセンにて、だれでも気軽に参加できる楽しいイベントの企画、分かりやすい展示物の作成、地域へのエコ学習会などの活動に関わっていきたいと思っています。



京エコサポーター11期生
高坂 幸利さん

子どもから大人まで環境人づくり

2014 年度 成果目標

講座修了生や参加者の学びが実践に繋がるように、センターのノウハウや場所を活用した講座・年間プログラムの企画・実施がされている。また、講座・プログラムの参加を通して学んだことを、参加者やスタッフが実践し、まわりに伝える担い手になっている。

2014 年度 結果

講座やプログラムの実施にあたっては参加者を意識し、よりよい学びや実践につながるよう企画・運営をおこなうなど、より実践的な内容となってきた。参加者への実践的な企画を実施していくことで、それに関わるスタッフも参加者と共に成長することができた。

また講座・プログラム修了後の参加者の動向については、一部の事業ではアンケートを実施するなどして実践に結びついている様子が掴めているが、その他の事業においては掴めていない。

2015 年度 到達目標

環境教育・環境保全活動を行う上で必要な知識・スキルを身につける講座が行われ、講座を修了した人々がセンターをはじめとする様々な主体によるフォローアップ・活動支援を受けて、環境リーダーとしての活動を生み出し、社会に対してアクションを行っている。

えこそら屋上部

屋上の田畑やビオトープを活用し、「自然や食の循環と暮らしとのつながり」を学ぶことのできる場を作っています。小学 1 ～ 4 年生とその家族を対象とした通年プログラム「えこそらキッズ」に加え、夏休みイベント「生きもの探偵団」を実施しました。参加者だけでなく、環境ボランティアが参加者との関わり方について学ぶ場にもなっています。また、屋上の草刈等の管理作業や生物調査・記録を行い、その結果を伝えるための掲示板を新たに設置しました。



収穫した稲をボランティアと共に脱穀している様子

環境教育リーダースタートアップ講座 2014

環境教育実践の担い手を育てるため、全 6 回の連続講座を実施しました。講座では、環境教育の概論、自然体験、まちづくり、ライフスタイルの変革、伝える技術をテーマに、座学や体験を交えて、プログラムの企画から実践までのプロセスを体系立てて学べるよう講座内容をデザインしました。最終日には、企画したプログラムの実践を行い、修了生や講師からフィードバックを得ることで、講座終了後の実践に繋げる講座内容にしました。



「買い物ゲーム」体験の様子

自然エネルギー学校・京都 2014

自然エネルギー学校では、「ポストFIT※の市民共同発電所」をテーマに、自然エネルギー普及の担い手として活動できる人材の育成を目指し、全5回の連続講座を実施しました。講座では、法律・金融・政策・技術を中心に学び、計画づくりやコーディネート能力を高めました。2014年度の講座では、全ての事例紹介を過去の修了生が行いました。修了生に発表してもらうことで、修了生と受講者を繋げるネットワーク形成の場としても講座を活用することができました。

※ FIT：再生可能エネルギー固定価格買取制度



ワークショップの様子

京都教育大学授業

京都教育大学の夏期集中講座「環境教育の実践 - 環境ファシリテーター入門 -」（5日間）を企画運営しました。講座は環境教育の理解、環境学習プログラムの企画実施、プログラム実施のための効果的なコミュニケーション手法について、体験と講義をまじえて体系立てて学べる内容としました。最終日には公開演習として受講生が作成したプログラムをセンターの来館者を対象に実施しました。2014年度は京都教育大学を含めて、5大学から11名が受講しました。



受講生によるプログラム実施の様子

大学生インターンシップ受け入れ

インターンシップでは、9名の大学生を受け入れました。夏休み期間を中心に、来館者対応やイベントのサポート、ミニプログラム「ちきゅまるひろば」の企画・実施など、センターの様々な業務を行いました。こうした体験を通して、環境教育プログラムづくりのノウハウだけでなく、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力など、様々なノウハウやスキルを身につけた人材育成を実施することができました。



インターンによる「ちきゅまるひろば」実施の様子

かえっこバザール

かえっこバザールは、全国共通ルールで運営されるおもちゃ交換の仕組みです。センターでは、環境ボランティアによる運営や館内展示の案内、「エコセン通い帳」（後述P.11）等を組み合わせ、センターならではの運用をしており、多くのファンを獲得しています。2014年度は、年間スケジュールを当初から告知できたため、多くの初参加者を獲得することができました。また、2月にはかえっこバザール考案者の藤浩志氏をお招きし、講演会を2日間開催しました（主催：京都市ごみ減量推進会議事務局 共催：センター）。



子どもが司会役を務める大人気のオークションの様子

職場体験受け入れ

京都市教育委員会による「生き方探究・チャレンジ体験」の受け入れを行いました。例年の団体見学の受け入れのサポート活動に加えて、ボランティアにインタビューしスタッフ紹介の記事を書く、図書コーナーの本を借りて本の紹介ポップを作るなど、新しい活動も実施し、来館者向けに生徒の活動成果を残しました。また、事前訪問の際に希望の活動を聞き、屋上の生きもの調査を活動に追加するなど、充実した体験となるように工夫しました。



エコメイトインタビュー展示作成中の中学生

いろいろな主体による 環境保全活動への支援と連携 (支援・連携する場)

2-1

地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携

2014 年度 成果目標 地域環境活動をサポートするプログラムが提供できる体制が整っている。

2014 年度 結果 2013 年度に整備した事業の実施体制及び京エコサポーターの活動枠組みに沿って、事業を実施・運用することができた。さらに、プログラムの開発も進み、講座形式のプログラム開発については、ごみ減量をテーマとする学習会テキストを作成し、出展形式のプログラム開発については、自転車発電や大型水車による水力発電などを開発できた。

他事業と連携しながら、京エコサポーターが地域でプログラムを提供できる体制が整いつつある。特に、エコ学区サポートセンターとの連携において、サポートセンターのスタッフが地域コミュニティとの折衝を行い、プログラム実施を京エコサポーターが担うという体制が整いつつある。また、その提案を有効に行うために、京エコサポーターが実施できるプログラムをまとめたメニューの作成も行った。

2015 年度 到達目標 自治会をはじめとする地域の様々な主体が、自主的に環境配慮型コミュニティづくりを行うための支援体制が整っている。

地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携

地域の団体が環境をテーマに活動を行う際、京エコサポーターを中心に環境学習プログラムを実施することで、環境活動を支援しています。2014 年度は、省エネ・ごみ減量に関する講座形式のプログラム、発電の仕組みを体験できるブース出展形式のプログラムを実施しました。その中で、述べ 115 名の京エコサポーターが、24 回の学習会、18 回のブース出展を企画・実施しました（※「エコ学区事業」「くらしの匠事業」含む）。



「板橋学区での学習会」実施の様子

2-2

NPO をはじめとする環境保全活動団体への支援・連携

2014 年度 成果目標

助成金事業の募集・選考・採択及びその後のフォローアップを通じて、制度がより活用しやすいものになっている。助成金事業を通じて支援を行った環境保全活動団体への助成金だけではなく支援の方向性が整理されている。

2014 年度 結果

助成金採択後、団体からの相談を受け柔軟に対応し、より支援をしやすくなるよう、制度の見直しを行った。過去の採択団体からのアンケートより、環境保全活動団体の支援のニーズを抽出し、環境活動支援メニューの整理、方向性について検討を行った。

2015 年度 到達目標 市内の環境保全活動団体の現状を理解しながら、各主体とセンターが互いに発展するための、支援・連携の方法が構築されている。

環境保全活動助成

市民による環境保全活動が継続され、ステップアップしていくことを目的に、活動の段階や規模に合わせて 3 つのタイプ（上限 100 万円、10 万円、5 万円）の助成事業を行いました。2014 年度は 3 タイプ合わせて 7 団体の事業を採択しました。各助成事業終了後には、各団体がノウハウや情報の交換を行うことのできる機会、センターへ期待する支援について意見を交換する場として、活動成果報告会を開催しました。また、採択団体以外も対象とした「助成金申請スキルアップ講座」も開催しました。



活動成果報告会の意見交換の様子

持続可能な地域社会への提案、 情報発信と交流 (発信する場)

3-1

情報発信・広報対策

2014 年度 成果目標

センター事業の内容・過程・成果や環境に関する様々な情報を活用しやすい形で発信し、交流している。

2014 年度 結果

センターにおける様々な事業について、年間を通じた広報計画に則り、計画的にプレスリリース等を始めとする広報を行うことができ、メディア等への掲載等一定の結果を得ることが出来た。

イベントに限らない事業の広報も始めているが、まだ発信している情報の多くはイベントに偏り、センターの多様な事業とその魅力を十分に発信するには至っていない。

また、京都市外や国内外を意識した情報発信は十分とは言えない。

2015 年度 到達目標

センター事業の内容・過程・成果や環境に関する様々な情報を活用しやすい形で国内外に発信し、交流している。

図書

センターの環境図書コーナーでは、約 7,000 点の資料（図書・雑誌・視聴覚資料等）を通じて、環境問題や環境学習に関する情報を発信しています。2014 年度の利用状況については、資料の貸出が 2,260 冊、ビデオ・DVD の利用が 2,302 人、新規図書利用者カード登録者が 150 人でした。また、容易に資料を探せるよう、図書の分類方法の変更、検索システムのリニューアルを行いました。また、除籍資料を市民の方に譲渡するイベント「ほん・で・リング」を開催するなど、図書コーナーの認知度向上に努めました。



イベント「ほん・で・リング」の様子

通い帳

環境ボランティアや職員との関わりを通じて、センターの展示やエコへの学びが深まることを目的とした「エコセン通い帳」を運用しています。「チャレンジカード」に書かれたエコなクイズや指令をクリアするとスタンプがもらえる仕組みで、スタンプを 10 個集めた参加者には「エコの達人認定証」を授与しています。楽しくエコを学びながら継続的な来館を促すツールとして活用しており、通い帳を通じたリピーター（ファン）の増加にもつながっています。



「エコの達人認定証」

出展

センター事業のPRや環境意識の啓発等を目的に、地域のお祭りや環境イベント等へのブース出展を行っています。職員や環境ボランティアが体験を交えたプログラムを実施し、来場者が環境について考える機会を提供しています。2014年度は39件の出展を行い、ブース来場者は4,970名でした。また出展の際には、「エコセンのPR・広報」「環境関係団体等との関係性構築」「地域各種団体との関係性構築」といった目的ごとに分類し、目的に応じた実施体制を整えました。



環境ボランティアが環境啓発をしている様子

広報・プロモーション

ホームページやブログサイトと、ソーシャルメディア（Facebook、twitter）を連動させ、センターの情報に多くの人々が触れることができるような情報発信を意識的にを行っています。また、年間を通じた広報計画を立て、効果的かつ効率的に、魅力的な情報を届けるための工夫を行っています。大型イベントやセンター事業の魅力を発信するためのプレスリリースにも力を入れ、多くのWEBや、新聞等のメディアにイベントの様子や事業の紹介が掲載されました。



プレスリリースページの開設

パンフレットリニューアル プロジェクト

開館より使用していたパンフレットをリニューアルしました。新しいパンフレットは、親子層をメインターゲットにし、「エコセンを知らない人でも手に取りたい」「来館者がエコセンを楽しくわかりやすく知ることができる」をコンセプトに作成しました。親しみもてるイラストをつかったデザインにし、かばんに入れて持ち帰りやすいA5サイズにしました。また、館外でも配布して来館をより促しやすいよう、施設利用の紹介なども取り入れました。



リニューアルしたパンフレット

季刊誌「エコせん」

季刊誌「エコせん」を隔月で年6回、毎号3,000部作成・発行し、市内各所に配布しました。季刊誌のコンセプト「京のくらしと人とエコ」にあわせて、センターの活動や魅力を広く発信し、来館促進につなげるために、ターゲットとなる親子層を意識した誌面づくりをおこなっています。なかでもスタッフが登場するマンガコーナーは読者からの反響も大きく、好評を得ています。また、季刊誌をより多くの方に届けるために、配架先の新規開拓にも取り組みました。



2014年度に発行した季刊誌エコせん

イベント情報紙「えこいべ」

主に親子を対象としたイベント情報を広く一般に広報するため、A4半折りの紙媒体「えこいべ」を毎月発行しています。2014年度は、前月に開催したイベントの様子を掲載するなどの試みを取り入れました。毎回約3,500部を印刷し、市内の公共施設等に配架しています。また、小学校の夏休み期間に開催するイベントを特集したA3半折りの紙媒体「えこいべ夏休み特大号」は、近隣小学校など35校に約14,500部配布し、掲載したイベントのほとんどが定員に達しました。



イベント情報紙「えこいべ」

ネットワーク形成

関係機関・団体との連携を強化することを目的に、各種委員会・ネットワーク等に参画しています。2014年度は、京都グリーン購入ネットワーク普及啓発部会、環境NGOが主宰する生物多様性環境学習プログラム作成のワーキンググループ、地球環境関西フォーラム環境教育・啓発部会、全国ボランティアコーディネーター研究集会実行委員会、科学の祭典京都大会実行委員会等に参画しました。また、日本環境教育学会に参加し、センター事業と実績について発表を行いました。



日本環境教育学会での発表の様子

京都・環境教育ミーティング

「新しい場づくりと環境教育ミーティングのこれから～ESDの視点を含め、環境教育をじっくり考えよう～」をテーマに、第11回京都・環境教育ミーティングを実施しました。今回は初の試みとして2日間開催とし、これまでになかった3時間ワークショップやESDに関する講演のほか、環境教育の現状と課題出し、および今後求められる新しい場づくりについて考える参加者全員でのワークショップを実施するなど、これまでよりも濃いミーティングとなりました。



第11回京都・環境教育ミーティング

3-2

イベントの企画と実施

2014年度 成果目標

環境問題に無関心な人々が関心を持つ、多様な切り口のイベントをパートナーシップで実施している。普段の暮らしの中でできる環境配慮型の行動を広めていこうとする人を増やし、センターの事業に参加する人が現れている。

2014年度 結果

従来のイベントに加えて、多様な切り口による新規イベントをパートナーシップで実施し、新たな参加者層もみられた。2014年度は、企画展やエコそらキッズと連携したイベントを実施するなど、他事業の情報を知らせかけを提供できた。2014年度に限らず、イベントに参加したことをきっかけに、エコそらキッズに申し込まれた例や、エコメイトに登録された例が数件ある。

2015年度 到達目標

環境問題に無関心な人々が関心を持つ、多様な切り口のイベントをパートナーシップで実施している。そこから、センターの他事業に参加・参画する人々が現れている。

イベントの企画と実施

参加者が環境問題の現状を知り、暮らしの中で実践するきっかけとなる、多様な切り口によるイベントをパートナーシップで企画・実施しています。2014年度は、他事業との連動を意識したスタッフイベントも開催したほか、新たな参加者層獲得につながるような企画や共同主催型の大イベントも開催しました。2013年度改定した参加者アンケートからは、過去に参加したイベントをきっかけに「家庭でも意識するようになった」などの声が読み取れるようになっています。

2014年度イベント事業総参加者数：4,226名

2014年度イベント事業総実施件数：103件（1000名規模の大イベント開催は3回）



「虫ってどんな味？昆虫料理を食べてみよう！」の様子



パートナーシップでつながる 様々なテーマの体験型エコイベント



環境にあまり関心がない方でも、普段の暮らしの中とつながる様々なエコについて、子どもから大人まで楽しく学べる体験型イベントを20人規模のイベントから全館を使ったイベントまで様々な形で実施しています。特にセンター全館をつかった大型イベントでは、テーマに関連する団体やボランティアとのパートナーシップのもとイベントを開催し、スタッフもオリジナルプログラムを企画・実施しています。2014年度は3回の大型イベントを実施し、約1000名ものたくさんの方にご参加いただいた回もありました。イベントを通じて、参加者の環境への気づき・学び提供だけでなく、出展団体同士の交流の場にもなっており、そこから新たな繋がりが生まれています。

きょうのごはんに大感謝祭 ～地球とつながるみんなの暮らし～

イベントの目的

食物の生産・流通・販売・消費・廃棄など一連の食料システムをつなぐことで、参加者が日々の食卓を見つめなおし、暮らしの中でより良い選択を心がけていくこと。



ひとときフェスタ ～まちで森とつながる暮らし～

イベントの目的

参加者が森林の現状や木の良さについて知ることで、街で森とつながる暮らしが広がり、森林資源が循環する自然に寄り添った持続可能な暮らしが広がっていくこと。



紙フェス in 京都 遊びと学びの紙の世界

イベントの目的

日常にある紙に触れ、体で感じることを通して、参加者が生活の中での紙との付き合い方や、資源として循環させる大切さなどに気づくこと。



チラシでメッセージを伝えられるようなデザインにするなどの工夫も行っています。



パートナーのこえ

協働で広がる新しいカタチ

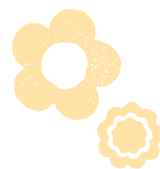
京都市ごみ減量推進会議は、市民、事業者、行政のパートナーシップで、ごみの減量を推進する活動を展開しています。今回、京エコロジーセンターの方に委員として加わって頂いたことをきっかけに、「紙フェス in 京都」というイベントを開催することができました。大きなイベントでしたが、当会議会員団体の協力とセンタースタッフやボランティアの方々との協働により、今までにない新しい形で、たくさんの方々に楽しく参加いただけるイベントを開催できたと思っています。今後もお互いの強みを活かし、市民および子どもたちに、資源の有効活用とごみ減量の取組について考えるきっかけを提供できればと思っています。



京都市ごみ減量推進会議
講座小委員会委員
水野 哲雄さん
(京都造形芸術大学名誉教授)



エコセン来館者 100万人達成!!



2014.7.18

センターは2014年度で開館12年目を迎えました。これまでに子どもから大人の方まで、京都をはじめ国内はもちろん、世界中からたくさんの方にご来館いただきました。おかげさまで2014年7月18日（金）に「来館者100万人」を達成しました。100万人目のお客様はご近所にお住いの後藤まふゆちゃん。お母さんと弟さんと3人で遊びに来てくれました。インタビューを行うと…「図書コーナーで絵本を読むのが好き!」と教えてくれました。当日はスタッフとエコセンイメージキャラクターのちきゅまるがエントランスで100万人目のお客様をお迎えし、記念セレモニーを行いました。エコセン館長でもある環境マンガ家「ハイムーン先生」オリジナルのイラスト入り絵皿とうちわをプレゼント。最後に、「ハイムーン先生の漫画に入ってみよう」コーナーで、記念撮影を行いました。100万人記念展示コーナーではハイムーン先生の作品「地球は誰のものか?」を再現しました。



京エコロジーセンターは人材の宝庫

2014年、「京の七夕」堀川会場で毎年実施されているピコ発電水車に黄信号が灯った。何故なら、電気系統を担当されている方が急に亡くなられたのだ。この危機を救ってくれたのが、5人の京エコサポーター達であった。お陰様で、水車発電で明りを点灯することができ、多くの来場者が楽しまれた。この事を通じてセンターの人材の豊富さを実感した。日頃は、センターの職員・エコメイトの皆さんが多くのイベント・館内見学をこなし、様々な地域のエコ活動も支援している。又、外部の豊富な人材とのネットワークもある。環境問題は、取り組む人の熱意が大きな比重を占める。幸い、センターは熱い思いを持った豊富な人材を擁している。エコ活動で困った時はセンターに相談すればよい。多くの人にそう思われるセンターを期待しています。



事業運営委員
中田 富士男さん

エコセンとの出会い。今後に期待すること。

知人に進められて、7年前にエコセンのボランティアに応募しました。3年間のエコメイトを経て、現在京エコサポーターとして在籍しています。何年か運営委員会にも参加させていただいております。エコセンの活動には、子供たちの環境学習、館内展示や案内、館内のイベント、館外での活動、海外への発信、他団体への支援、等々、大切なものが、たくさんあります。これらの活動を発展させながら環境の拠点としてあり続けるのは、もちろんのことですが、少し視点を変えて、是非続けていただきたいのが環境ボランティアの育成です。1期生から現在に至るエコセン出身の環境ボランティアは、それぞれ色々な所で、今も活動を続けています。少数とはいえ、毎年、新しい人材が輩出され、確実に輪が広がっています。目に見える実績です。波及効果は想像もできません。これからも新陳代謝のよさを保ち、質を上げながら、継続的に環境ボランティアの輪が広がっていく事を期待しています。



事業運営委員
山本 照美さん

エコセンから始める身近な地球温暖化対策を

京都市では、地球温暖化防止京都会議（COP3）で採択された「京都議定書」誕生の地として、「DO YOU KYOTO?（環境にいいことしていますか?）」を合言葉に、市民ぐるみで地球温暖化対策に取り組んでいます。

COP3 開催記念館として平成14年4月に開館した「京エコロジーセンター」は、2014年7月18日に100万人目のお客様を迎えるなど、環境学習・環境活動の拠点施設として広く親しまれています。

持続可能な低炭素社会を実現するうえで、私たち一人ひとりが温室効果ガス削減に積極的に取り組み、環境にやさしいライフスタイルへの転換を進めることが何より大切です。そのため、エコ活動を地域に伝える人材の育成が喫緊の課題であり、これまで250名を超える環境ボランティアを育ててきたエコセンは、その重要な役割を担っています。かけがえのない地球を未来に受け継ぐため、皆で力を合わせて「DO YOU KYOTO?」の輪を世界に広げていきましょう。



京都市地球環境・エネルギー政策監
松本 重雄さん

事業全体を通じて

本事業報告書は、2011年に策定した「京エコロジーセンター第2期中長期計画」の枠組みに沿って構成されています。策定から5年後の2015年を到達年度として、目標を設定しています。毎年、PDCAサイクルを回しながら、年度終了時点での到達状況を確認し、

残りの年数をどのようなステップを踏みながら目標達成していくのかを確認しながらプロジェクトを推進させてきました。2014年度を終え、到達年度まで残すところあと1年となりました。目標達成まで、もう一歩のプロジェクトもあれば、すでに目標達成できたプロジェクトもあります。施設としての成果は、様々な形で生まれており、内外からの評価も多くいただくようになってきました。京都市民からの貴重な税金によって運営され、その成果は、京都の地域社会にはじまり、日本、世界へも還元されはじめています。COP3開催記念館として、地球温暖化による気候変動が極めて厳しい状況になりつつある今、より大きな力を社会に、地球に還元していくためにも、お客様を始めとした、より多くの人たちの力をセンターに集結させ発信していくことが必要になると考えています。

入館者数編

資料1. 経年入館者数

1. 入館者数

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
合計	86,085	83,010	74,210	75,815	69,380	77,979	79,733	80,068	68,881	87,434	96,377	94,546	91,847
累計	86,085	169,095	243,305	319,120	388,500	466,479	546,212	626,280	695,161	782,595	878,972	973,518	1,065,365
団体見学（上段：総数、下段：団体数）													
合計	8,794	6,796	4,870	7,217	7,050	7,584	8,850	5,911	6,714	6,026	5,468	6,104	6,091
	307	234	201	247	191	232	271	213	219	175	194	198	175
内	300	127	128	245	193	683	538	628	1,081	701	444	696	740
海外		5	10	16	12	26	26	37	40	27	23	25	28
エコ学習（上段：総数、下段：学校数）													
合計	19,597	21,027	11,318	11,716	10,964	11,236	10,817	5,598	4,013	5,219	5,504	4,949	4,794
	235	256	243	180	182	177	178	85	96	117	111	151	147
会議室貸出件数（上段：利用者数、下段：貸出部屋数）													
合計	4,047	4,333	4,895	5,306	5,454	7,167	6,707	5,280	5,432	4,987	4,807	4,430	4,359
	173	299	409	470	469	589	581	457	459	481	452	430	391

2. 館外事業参加者数（上段：総参加者数、下段：件数）

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
合計	3,657	11,066	15,053	21,446	9,927	16,263	13,428	25,179	15,720	14,188	12,936	9,995	6,728
	27	37	59	107	110	128	142	118	174	141	130	86	81

3. 入館者数と館外事業参加者数の合計

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
館内	86,085	83,010	74,210	75,815	69,380	77,979	79,733	80,068	68,881	87,434	96,377	94,546	91,847
館外	3,657	11,066	15,053	21,446	9,927	16,263	13,428	25,179	15,720	14,188	12,936	9,995	6,728
合計	89,742	94,076	89,263	97,261	79,307	94,242	93,161	105,247	84,601	101,622	109,313	104,541	98,575

資料2. 月別入館者数

	2014 年度 入館者数	内 訳									経年入館者数	
		個人	団体見学				工口学習		会議室等			
			総数		(内、海外)							
			人数	団体数	人数	団体数	人数	校数	利用者数	部屋数等	2013年度	2012年度
4月	7,181	6,170	111	5	0	0	542	15	358	26	6,658	9,470
5月	7,480	5,874	951	13	34	2	291	9	364	33	7,069	7,771
6月	7,182	5,742	466	16	39	3	566	10	408	34	7,071	6,836
7月	8,631	7,140	670	23	111	4	331	17	490	36	9,345	9,920
8月	10,670	10,025	357	13	27	2	0	0	288	36	9,961	10,534
9月	6,180	5,126	431	14	14	1	196	5	427	44	7,111	6,528
10月	6,329	4,894	747	19	65	3	416	12	272	29	7,416	9,999
11月	10,282	8,355	895	20	60	3	703	18	329	27	11,560	8,828
12月	6,211	4,912	321	14	31	3	618	21	360	32	5,219	4,934
1月	5,915	4,950	135	8	64	4	424	15	406	33	5,839	5,512
2月	8,212	6,888	348	15	19	1	707	25	269	26	9,948	8,603
3月	7,574	6,527	659	15	276	2	0	0	388	35	7,349	7,442
計	91,847	76,603	6,091	175	740	28	4,794	147	4,359	391	94,546	96,377

環境啓発イベント (イベント・プログラム)				主催・共催事業 ※1			
館内		館外出展		館内		館外	
参加者	件数	参加者	件数	参加者	件数	参加者	件数
1,046	23	63	1	47	1	16	1
289	8	66	1	103	6	353	4
468	12	200	1	110	4	99	3
528	21	690	6	87	5	83	4
1,138	51	377	4	272	28	26	1
155	11	942	4	170	11	65	2
165	10	1,550	8	131	8	0	0
748	8	845	7	154	16	61	4
964	26	185	2	77	4	62	5
114	9	0	0	110	12	79	4
870	13	342	5	295	21	387	8
279	14	183	2	25	7	54	4
6,764	206	5,443	41	1,581	123	1,285	40

※1：他団体との共催事業、講座・研修等の事業、館外イベント等

ボランティア活動編

2014 年度 環境ボランティア人数

エコメイト	京エコサポーター
42 名	118 名

環境ボランティア人数変化

年度	2002 年度 1～2 期	2003 年度 1～3 期	2004 年度 1～4 期	2005 年度 3～5 期	2006 年度 4～6 期	2007 年度 5～7 期	2008 年度 6～8 期	2009 年度 7～9 期	2010 年度 8～10 期	2011 年度 9～11 期	2012 年度 10～12 期	2013 年度 11～13 期	2014 年度 12～14 期
エコメイト 登録者数	85 名	104 名	108 名	85 名	81 名	83 名	82 名	72 名	61 名	55 名	51 名	47 名	42 名
京エコ サポーター 登録者数				31 名	51 名	74 名	89 名	89 名	87 名	81 名	94 名	108 名	118 名

エコメイト修了生は 2014 年度末に 12 期生が修了し、合計 262 名になりました。

エネルギー資源使用量編

水道使用量

	2月14日～ 4月10日	4月11日～ 6月12日	6月13日～ 8月12日	8月13日～ 10月10日	10月11日～ 12月11日	12月11日～ 2月10日
水道使用量 (㎡)	86	76	153	41	88	107
使用量累計 (㎡)	86	162	315	356	444	551

	1月23日～ 3月24日	3月23日～ 5月22日	5月23日～ 7月22日	7月23日～ 9月24日	9月25日～ 11月20日	11月21日～ 1月20日
雨水使用量 (㎡)	173	149	304	262	140	100
使用量累計 (㎡)	173	322	626	888	1,028	1,128

電力量

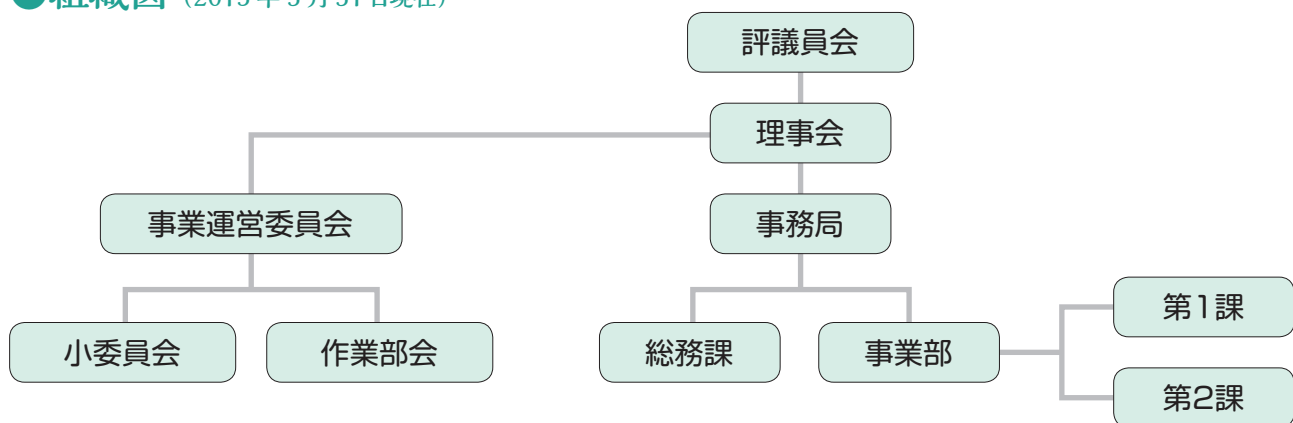
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電力使用量 (kWh)	14,663	9,885	9,783	26,815	32,755	28,488	11,493	11,407	28,110	33,177	40,467	30,211	277,253
太陽光発電使用量 (kWh)	2,417	2,810	2,190	2,260	2,262	1,887	1,965	1,509	1,103	922	862	1,148	21,334
関西電力 (kWh)	12,246	7,075	7,593	24,555	30,493	26,601	9,528	9,898	27,007	32,255	39,605	29,063	255,919
太陽光発電量の割合 (%)	16.5%	28.4%	22.4%	8.4%	6.9%	6.6%	17.1%	13.2%	3.9%	2.8%	2.1%	3.8%	7.7%

※太陽光発電量内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
太陽光発電量 (kWh)	2,448	2,820	2,263	2,262	2,262	1,887	1,968	1,514	1,103	926	863	1,149	21,464
売 電 量 (kWh)	31	10.5	73	2	0	0	3	5	0	4	1	1	131
使用量 (kWh)	2,417	2,810	2,190	2,260	2,262	1,887	1,965	1,509	1,103	922	862	1,148	21,333

事業運営体制

京エコロジーセンターは
公益財団法人京都市環境保全活動推進協会が
指定管理者として、運営を行っております。

●組織図 (2015年3月31日現在)



●役員・運営等の状況 (2015年3月31日現在)

役員等の数

- ◎理事長…1人
- ◎専務理事…1人
- ◎理事…7人
- ◎監事…2人
- ◎評議員…12人

評議員会

2回開催 (5月、3月)

理事会

6回開催 (5月、7月、12月、3月に3回)

●パートナーシップで運営される各種委員会の開催

センターの事業は、パートナーシップで運営される各種委員会により運営されています。

■事業運営委員会

事業運営に係る事業方針・計画、長期的な事業並びに利用団体及び事業者等とセンターが連携する事業の企画・立案・評価を行うことを目的に、センター事業運営委員会を設置しています。
前年度事業の総括、事業の中間進捗状況の確認、次年度計画の策定を行っています。

■作業部会

必要に応じて個別案件ごとに「作業部会」を立ち上げます。2014年度は「展示作業部会」を開催しました。

役員名簿（敬称略・順不同）（2015年3月31日現在）

役職	氏名	
理 事 長	高月 紘	京都大学名誉教授
専務理事	新喜 富雄	公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会事務局長
理 事	松本 育生	特定非営利活動法人 環境市民代表理事
//	田浦 健朗	特定非営利活動法人 気候ネットワーク事務局長
//	橋本 直子	株式会社 Hibana 代表取締役
//	花田 眞理子	大阪産業大学大学院人間環境学研究科教授
//	久山 喜久雄	フィールドソサイエティー代表
//	水山 光春	京都教育大学教授
//	宮崎 秀夫	京都市環境政策局地球温暖化対策室担当部長
監 事	野村 克章	税理士
//	三宅 英知	京都市環境政策局環境企画部長

評議員名簿（敬称略・順不同）（2015年3月31日現在）

氏名	
浅利 美鈴	京都大学環境科学センター助教
市川 智史	滋賀大学環境総合研究センター教授
土山 希美枝	龍谷大学政策学部准教授
中田 富士男	京都市ごみ減量推進会議理事
永橋 爲介	立命館大学産業社会学部教授
長屋 博久	有限会社村田堂取締役
原 強	特定非営利活動法人コンシューマーズ京都理事長
馬屋原 宏	京都市環境政策局地球温暖化対策室長
岡田 寛子	株式会社京都銀行公務部長
桑 善子	有限会社思風都代表取締役会長
周 瑋生	立命館大学政策科学部教授
田中 克	京都大学名誉教授

事業運営委員名簿（敬称略・50音順）（2015年3月31日現在）

氏名	
伊東 真吾	一般社団法人 市民エネルギー京都
井上 和彦	京のアジェンダ 21 フォーラム
大久保 規子	大阪大学 大学院法学研究科
北村 憲治	京エコロジーセンター環境ボランティア
松本 育生	特定非営利活動法人 環境市民
田浦 健朗	特定非営利活動法人 気候ネットワーク
高月 紘	公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会
高橋 肇子	京都市地域女性連合会
中川 雅貴	京都商工会議所 産業振興部 まちづくり推進担当
中田 富士男	京都市ごみ減量推進会議
西本 雅則	特定非営利活動法人 きょうと NPO センター
原 強	特定非営利活動法人 コンシューマーズ京都
久山 喜久雄	フィールドソサイエティー
松浦 卓也	京都市環境政策局 地球温暖化対策室
水山 光春	京都教育大学
宮地 伸	(株)イオンリテール 東近畿カンパニー
八代 康弘	京都市環境政策局 ごみ減量推進課
山内 寛	京都市ごみ減量推進会議
山本 照美	京エコロジーセンター環境ボランティア

展示作業部会員名簿（敬称略・順不同）（2015年3月31日現在）

氏名	
高月 紘	公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会
久山 喜久雄	フィールドソサイエティー
北村 彰	アイデアルデザイン製作所
高田 研	都留文科大学

KESの取り組み

環境マネジメントシステムの取り組み

2003年2月1日からKES（環境マネジメントシステム）に京エコロジーセンター、及びセンター内に事務局をおく京都市ごみ減量推進会議、京のアジェンダ21フォーラムで取り組んでいます。

基本理念「京エコロジーセンターは、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて環境負荷の低減に努力します。」の下、2014年度は以下の項目に取り組めました。

取り組み項目

- (1) エネルギーの削減
- (2) 紙の使用量の削減
- (3) 廃棄物の削減
- (4) KES 職員研修の実施
- (5) グリーン購入の推進



KES 職員研修で発表の様子

インフォメーション

本報告書に掲載した情報以外にも様々な情報を発信しています。



●京エコロジーセンター WEB サイト

<http://www.miyako-eco.jp>

ブログも是非ご覧ください。

<http://www.miyako-eco.jp/blog/>



●京エコロジーセンター携帯サイト

<http://www.miyako-eco.jp/m/>



●京エコロジーセンター Facebook

<http://www.facebook.com/miyakoeco>

●京エコロジーセンター Twitter

@miyako_eco

京エコロジーセンターの歩み（概要）

西暦	平成	事項
1994	6	京都市一般廃棄物処理基本構想策定 → ごみ問題の学習拠点施設の必要性を位置づけ
1995	7	国連気候変動枠組条約第1回締約国会議（COP1 ベルリン）
1996	8	新京都市環境管理計画策定 → COP記念センター構想
1997	9	国連気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3 161カ国参加） → 京都議定書を採択
1998	10	環境学習・エコロジーセンター（仮称）基本構想策定懇話会を設置
1999	11	環境学習・エコロジーセンター基本計画を策定
2000	12	建設工事着工
		環境学習・エコロジーセンター（仮称）事業検討委員会・企画委員会を設置 → 市民・各種団体・NPO・事業者・教育関係者・行政で構成（現在：事業運営委員会）
2001	13	環境ボランティア養成を開始（9月）
2002	14	京エコロジーセンター開館（4月21日）
2005	17	京都議定書発効（2月16日） 京都市地球温暖化対策条例施行（4月1日）
		京エコロジーセンター中長期計画を策定
		指定管理者による運営・管理（第1期）〔指定管理者：財団法人京都市環境事業協会〕
2009	21	指定管理者による運営・管理（第2期）〔指定管理者：財団法人京都市環境事業協会〕
2011	23	第2期中長期計画策定（3月） → 2015年度事業プロジェクト到達点を明記
		改正京都市地球温暖化対策条例施行（4月1日） → 温室効果ガス総排出量の削減目標を数値化 2020年25%削減、2030年40%削減（1990年比）
2012	24	開館10周年（4月21日）
2013	25	指定管理者による運営・管理（第3期）〔指定管理者：財団法人京都市環境事業協会〕
2014	26	指定管理者である財団法人京都市環境事業協会が 公益財団法人京都市環境保全活動推進協会に改称（4月1日）
		来館者100万人達成（7月18日）



京都市環境保全活動センター
みやこエコロジーセンター

(指定管理者:公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会)

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
 TEL.075(641)0911 FAX.075(641)0912
 ホームページ <http://www.miyako-eco.jp/>



- 用紙:適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙
- インキ:植物油インキ
- 印刷:有害な廃液を排出しない水なし印刷

発行:公益財団法人京都市環境保全活動推進協会
 発行: 2015年9月